

故蹟を尋ね、或は調を名公に求め、交を志士に結
びぬ。

先に、安政戊午の大獄の時、上に記せる津崎村
岡は、水戸賜勅の事に周旋するところありしかど
を以て、幕吏に捕へられ、一旦江戸に押送せられ
評定所の糾問を受けしが、やうやく放免せられ
き。これより、村岡は、京都嵯峨なる直指庵に幽
居し、近衛家の先代并に亡友月照の冥福を祈りて
静に餘生を送れり。望東尼、一日嵐山に遊び、歸
途、村岡の幽居を訪ひけるが、村岡嫌疑を避け、
面晤を辭せり。望東、残り惜しさ限りなく、雲井
にも、君が名たかく、聞えけり、したひくる身を、
わはれとも見よ」とよみ出でしかば、村岡も「は
るばると、たづねし君の、めぐみをも、しづ心な
く、わはでぐるしさ」と答へき。勤王の志篤き二兩

女傑の心事眞に想像するに堪へたり。(つゞく)

川骨の一輪強き姿かな



汐干狩

中島歌子

いつこまで汐はひつらん袖か浦

小さくみゆる沖の人かけ

首夏蝶

同人

飛てふの羽袖もしろしうの花の

はるを隔てしかさねわたりは

曉落花

天野瀧子

鳥もまた寝くらはなれぬ曉の

かせなき庭にちるさくらかな

春 夢

日野西廣子

手枕の春風寒し夢にみし

はなのふゝさや身にしみにけむ

山中藤

中村禮子

若葉のみしけると見えし山陰の

いはるにうつる藤なみのはな

月下瀛車

磯部艶子

とくはしる車は過て月かけの

くまとなれるはけふり成けり

旅泊風

木原庫子

大舟のいかりおろして寝たるよも

こゝろのさはくかせの音かな

隣 柳

竹屋つね子

我ものとおもふはかりにとなりより

なひさかゝれる青柳のいと

水邊藤

大石津留子

むらさきの雲かと思えてみなそこに

うつる藤波かけゆらさけり

同

工藤しげ子

いさらるにしみつくまむとおりたては

たもとにかゝる藤波の花

山 吹

篠原みやの

舟とめて折らんとすれば瀬をはやみ

こゝろをのこす岸の山吹

庭新樹

池袋すか子

あささよめ袂涼しくなりにけり

庭の若葉のつゆもこぼれて

山吹 國越八重子

八重一重枝もたは、にさきにけり

露もおきそふ山吹の花

皇子御降誕を祝ひ奉りて 槻尾薫子

久方のくもぬはるかに一聲を

なのりそめたる千代の雛鶴

地久節を祝ひ奉りて 同

夏ひきの手ひきの糸をくりかへし

君か八千代を祝ひける哉

海邊郭公 田島ます子

青海原浪路はるかに月さえて

松原とほくなくほとゝきす

落花 同

玉たれのをすふきちらす山風に

ふみよむもとに花を亂るゝ

首夏 山川郁子

葉かくれにいつか來なかん郭公

初音ゆかしき夏は來にけり

首夏風 同

おそさくら匂ふあたりを吹きそめて

風こゝちよき夏は來にけり

水邊藤 館 つね子

にこりなき水にうつれる藤波の

若紫の色そゆかしき

皇子御降誕を祝ひ奉りて 鎌田さく子

千とせへんおひささしるきひなつるの

すたちし今日そうれしかりける

鶯 森岡たけ子

きみかへむ千とせの春を鶯も

いはひて歌ふ今日ぞ樂しき

水邊藤

森岡たけ子

ふち波のかけきよらにも見ゆるかな

庭のいけ水そこもすみつゝ

皇子御降誕を祝ひ祭りて 同

すこもりし千代のひなつる一聲の

雲井にひやく今日ぞうれしき

暮 春

松宮ゆた子

まらわひし花のさかりもとくすぎて

こすゑさひしき春の暮かな

首 夏

同

藤花の池の汀にうつろひて

若葉すゝしき夏は來にけり

首夏山

岡田折枝

なつころもかふべき頃となりぬらし

山のかすみのはれわたりぬる

山 吹

小島たつ

あすか川櫻ながれてゆく春を

しばしはせきて匂ふ山吹

水邊藤

同 人

池水にうつる藤浪立ちかへり

見れどもあかね花の色かな

落 花

鈴木ゆき子

朝日かけいまだにほはぬ山もとの

庵の面しろくちる櫻かな

増 鏡

小々高みさを

つきくに世々をうつせるますかゝみ

かけてあふがむ古の跡

千代をへてくもらぬかけをとめおく

史こそ世々のかゝみなりけれ

山中子規

手塚まづ

まばしとて谷の木蔭にやすらへば

ひかひの山になくはとゞぎす

山吹

寺島とく

行く水に清きすがたをうつしつゝ

にはふもゆかし山吹の花

首夏藤

夏草

別れに春のかたみと藤波も

いつしか木々にかくろひにけり

首夏風

つくろはぬ庭もすいしき夏木立

小すまき上げて風を待つかな

親

我子をばよかれと願ふ親ごゝろ

いつこの國も變らざるらん

折にふれて

心をば露けかさしよ世に出で、

身はやれころもよしまとも

ばらの花(唱歌)

東条子

ひらさめ晴れし

かとの垣根に

名残のつゆの

匂こぼれて

がをるもあはれ

ばらの初花

色香をめて、

手折る人もと

守の神の

針やたびけん

道行く人も

かへりみながら

手にだにふれず

今日も昨日も

かくてはやすく

散るまでを見ん

卯の花

同人

時ならぬ

雪といひふり